

## 多摩研「アニメ制作の現場と中小企業の役割、将来展望」に参加して

三多摩支会 小山 敬規

10月2日(土)、第155回・多摩研が開催され、コンテンツビジネス研究会 代表の山本康様による「アニメ業界の基礎知識」と、(株)A-1 Pictures 代表取締役社長の植田益朗様の「コンテンツビジネスの現場と中小企業の役割、および将来展望について」をテーマとした講演が行われた。

私は、アニメについては関心が薄く詳しくもないので、正直言うと今回の多摩研の案内をもらった時には参加を見合わせようかと最初は考えた。その後、今年私は実務補修や研究会に参加し経営者のお話をお聞きすることで、それまで知らなかった分野の業界の構造や景気の実態を知ることができ有益だったことを思い出し、今回の多摩研にも参加することを決めた。



コンテンツビジネス研究会 山本様の講演では、「コンテンツ」・「アニメ」といった言葉の定義、コンテンツ産業の規模とその内訳、アニメ産業の業界構造、アニメ制作プロセス、アニメ制作会社の課題などを分かりやすくお話し頂いた。それで全体像がイメージできた。最近では、パチンコに使われているという話などもあり、確かにそうだなと思った。

(株)A-1 Pictures 植田社長は、テレビシリーズ「機動戦士ガンダム」の制作に参加、劇場版「機動戦士ガンダム -めぐりあい宇宙-」、 「シティーハンター」シリーズ、など多くの著名な作品をプロデュースされた方であった。

「機動戦士ガンダム」では、それまでのみんなが見るようなアニメ番組作りから、高校生、大学生、20歳代前半の熱狂的な人にターゲットを絞った番組作りへの変更が当たったとのことだった。

植田社長の講演では、実際の現場でのアニメーター（原画や動画の制作を担当する人）とのやり取りの苦労やアニメ番組の製作にかかる経費の話なども交えながら、お話し頂いた。



植田社長ご自身の体験から常に新しいことにチャレンジしていくことが大切であるという話があり、私自身もそうありたいと思った。

世界に誇る日本のアニメではあるが、実態は大手の下請け・孫請けの厳しい環境で中小企業が作業を分担しながら担っている業界であると、再認識した。収益性の低い下請け・孫請け構造からの脱却が大きな課題であると思われた。

講演会後の懇親会にも参加した。今年4月の診断士登録、三多摩支会入会から約半年が過ぎた。研究会、マスターコース、実践中心のグループなどに参加して少しずつだが、新しい人との接点を広げられていると思う。

この懇親会でも、また少し新しい人と名刺交換、情報交換をさせて頂き、他の人がどんな活動をしているのかお聞きできた。新しい人との話から自分の視野や経験を広げるきっかけをよく頂くので、こういう場も大切にしていきたいと思う。